

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

医学図書館 (2017.9) 64(3):115.

【読者からの手紙】 木の根あく

鵜澤 和往

1 昨年4月、旭川医科大学図書館に転勤してきました。実は、千
2 葉県の出身なのですが、縁あって北海道大学に採用され、北海道
3 には通算20年以上住むこととなり、出身地よりも若干長い期間
4 住んでいます。北海道へは就職で来たのが生まれて初めてでした
5 ので、最初の頃はいろいろ驚いたことも多くありました。

6 北海道に引っ越してきたのは3月の末でした。引越の日は、雪
7 がちらついていて、職員向け独身寮のまわりには雪があちこちに
8 残っていました。それにも関わらず、千葉県生まれの感覚では、
9 もう3月だから暖房は無くても大丈夫だろうと甘い考えでいま
10 した。しかし、管理人さんにストーブをすぐを買うようにと強く
11 言われ、急いで買って来たことを思い出します。4月になっても
12 雪の日があり、時には吹雪くこともあり、「やっぱり北海道は違
13 うなあ」と思いました。

14 4月の末から5月になると街中の雪もとけてきます。就職した
15 年の連休に札幌から洞爺湖方面へドライブに連れて行ってもら
16 いました。途中、中山峠という峠を越えるのですが、山道を登っ
17 ていくと、麓の木々は芽吹き始めていましたが、峠の道路脇には
18 雪がまだ残っていて、広葉樹は葉を落としたままでした。ただ、
19 木の根元のまわりだけは雪がとけていたので「木も生きているん
20 だなあ」などとやや的外れな感想を持ちつつも、そのような風景
21 を今まで見たことが無かったこともあり、不思議と印象に残って
22 いました。つい最近、このことを俳句の季語では「木の根あく」

1 と表現すると新聞の記事で知りました。その記事によると『クス
2 ギなどの木の根に積もっていた雪がドーナツ状に解け出し黒い
3 穴を開けているのを「木の根あく」という。雪国独特の季語だ。』
4 とのことです。(新北のうた暦. 北海道新聞. 2017年3月15日;
5 朝刊)
6 さて、7月になると、北海道でも札幌や旭川ではかなり暑くな
7 ります。8月は、本州ではまだ夏の盛りですが、北海道では、お
8 盆の頃を過ぎるとそれまでの夏の空気から一気に秋の空気に変
9 わります。テレビでストーブやスタッドレスタイヤのコマーシャ
10 ルが流れ始めます。最初の年は、8月なのにもうストーブのコマ
11 ーシャル?と驚きました。
12 今年の1月には、生まれて初めて気温がマイナス20℃の朝を
13 体験しました。おそらく、ダイヤモンドダストだと思うのですが、
14 日差しに照らされて空気がキラキラと光っていてとても綺麗で
15 した。しかし、本当に寒さが肌に突き刺してきて、ゆっくり眺め
16 る余裕はありませんでした。それでも、旭川も最近は昔よりも暖
17 かくなっているようで、マイナス20℃以下の日も以前に比べる
18 とかなり少なくなっているそうです。とは言え、気温がマイナス
19 10℃を下回る日はしばしばあります。そんな中、外出すると睫
20 毛が凍ってまばたきがしにくくなります。目や鼻や口や喉に寒さ
21 が突き刺さり、私の場合は帽子やマスクが必需品です。
22 寒い話ばかりを続けてしまいましたが、体型的に暑い夏が苦手

1 ですので、住みやすい環境です。

2 さて、8年前当館にいらした北村課長（当時）が寄稿した際に

3 も触れていた学生の図書館利用マナーについては、未だに頭を悩

4 まされています。「会員館紹介」を読むときは、特に大学図書館

5 の場合は、参考になるようなことは書いていないか、とつい気にな

6 ってしまうます。最近では、第63巻3号の「ゾーニング」特

7 集は、それぞれの図書館のコンセプトに特徴があり、とても良い

8 特集だと思いました。それから、「東西南北」は、海外の情報や

9 新聞記事など幅広い情報が一つにまとめられていて、いつも参考

10 にさせてもらっています。

11 これからも『医学図書館』を参考に業務に携わっていただくと

12 思います。また、本稿は別として、当館からも皆さんの参考とな

13 るような情報を提供していければ、と思っています。